

夢もっぴろがれ

7

発行・編集
いぶき福祉会後援会

〒502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL.058-233-7445
FAX.058-232-9140
E-mail.ibuki@alto.ocn.ne.jp
(1部100円)

模擬店は長い行列



皆で楽しくダンス



晴天にも恵まれ、大盛況！
第24回いぶきふれあいまつり

もくじ

- ② 後援会総会報告
- ③ 組織改変について
- ④ 組織図
- ⑤ 事業部マップ
- ⑥ 「シリーズ」私と娘といぶきと
- ⑦ 親父の会報告
- ⑧ 仲間のすがた
- ⑨ 百々染の風景
- ⑩ いぶきの歴史
- ⑪ 理事会報告・決算報告
- ⑫ いぶきまつりに参加して
- ⑬ いぶきふれあいまつり報告
- ⑭ 全国障害者問題研究会からのお知らせ
- ⑮ 情報掲示板
- ⑯
- ⑰

そろそろ梅雨明け。本格的な夏の到来です！夏といえば山や海へのレジャー、花火大会など楽しみなことがいっぱい！同時に熱中症にも気をつけたい季節です。身体が暑さに慣れない梅雨明けの時期にも起こるそうなので、こまめな水分補給を心がけたいですね。



後援会総会報告

6月28日(日)北部コミュニティセンター大集会室にて後援会総会が行われました。後援会員約80名の出席がありました。



総会では、2014年度の報告と2015年度の方針について審議と議決がされました。総会の後は、特別企画として「法人20周年を振り返る」をテーマに、山田雄三さんと横幕嘉行さんから、20年前の

いぶきの取り組みについてお話しがありました。その後は、4～5名の小グループでのワークショップをしました。①「これからのいぶきに期待すること」②「自分が後援会活動でやろうと思うこと」をテーマに話し合い、一人一人の思いを話し合いました。



○後援会パンフレット
昨年度は、後援会の新しいパンフレットづくりをしました。事務局員

を中心にライター、デザイナーの方と打ち合わせをして、これまで後援会に入っていない方若いう年代の人にも手に取って読んでもらいやすいパンフレットを作りました。



○後援会員カード

あたらしく後援会員カードをつくりました。後援会員カードを日頃から携帯し、利用する機会を持つことで後援会員としての意識といぶき福祉会へのより深い関心を持つていただくことが目的です。今年度から新たに入会された方または更新された方に配布します。カードを使

つてお店で特典をつけられる仕組みづくりをしていきます。

○インターネットでの社会発信

後援会通信だけでなく、インターネットを活用した情報発信を行っていきます。いぶき福祉会のホームページ「いぶきの小窓」が新しくなりました。いぶき福祉会の活動、福祉事業、商品の紹介、後援会活動などについて紹介されています。ホームページの後援会入会申し込みの手続きができるようになります。また、いぶきの活動を若い世代にも広く知っていただくためにフェイスブックなどのSNS(ソーシャルネットワークサービス)を利用した情報発信も行っています。

す。「いぶきの小窓」(いぶき福祉会のページ)の他に「ねこの約束」「百々染」「ibukifarm」「いぶきバスボム」「かみの縁」「いぶきスターランド」など各フェイスブックページで商品や活動を紹介しています。

○会員拡大活動

2015年度の会員拡大目標として一般会員は、1口2,000円を1000名目標に取り組みます。団体会員は、1口10,000円を30団体。5口50,000円を12団体に増やすことを目標に取り組みます。

新しく作った後援会カード、パンフレットを活かしながら会員拡大に取り組みます。

後援会事務局長

原 哲治

組織改編について

いぶき福祉会も、市民の皆様を支えられながら20年歩んできました。1995年に事業を開始した時は、30人の仲間と二人の職員集団で活動を開始しました。その集団が20年経過し、150名近い仲間と130人近い職員の集団になりました。当時考えられなかった事業規模になり、隔世の感を禁じえません。

一方管理体制は、発足当時の体制がそのまま肥大した状態になっている事で経営・実践の質の維持が困難になってきました。それに対応すべく昨年度より慎重に議論を重ねてきました。それらを踏まえ、本年度大きな組織改編を行います。3ページの組織図をご覧になればわかるように、事業の3本柱「経営・運動・実践」のうち「経営・運動」を担う部署として『本部』を立ち上げました。福祉会の財務部門の責任を一本化し、将来計画を見据えた民主的な財政経営を目指します。また福祉会として、他の運動団体と大同じ、障害者福祉のみならずすべての人が住みよい地域とすべく社会保障制度の拡充を目指します。

さて、いぶき福祉会の事業所の数は20か所近くになりました。したがって地域をふたつに分け「西部(島地区・JR岐阜駅)」・「北部(三輪地区)」とし、それぞれに事業所を置きます。また不特定多数の方が利用する事業の「たーぶる(放課後等児童デイサービス)・相談支援事業」を地域生活支援事業部とし、それぞれが有機的に結びつき、実践の質の向上に努めます。

林 守男

いぶき福祉会 運営事業一覧

【西部事業部】

いぶき・ねこの約束

生活介護事業所 20名

いぶきゆめひろ共(同)作業所

就労継続A型事業所 20名

サテライトいぶき

生活介護事業所 20名

きざはし

生活介護事業所 20名

しまホーム

グループホーム 8名

さぎやまホーム

グループホーム 10名

ねこのて

ヘルパーステーション

たーぶる

放課後児童デイサービス 10名

相談支援事業所いぶき

相談支援事業

【北部事業部】

第二いぶき

生活介護事業所 40名

第二いぶきB

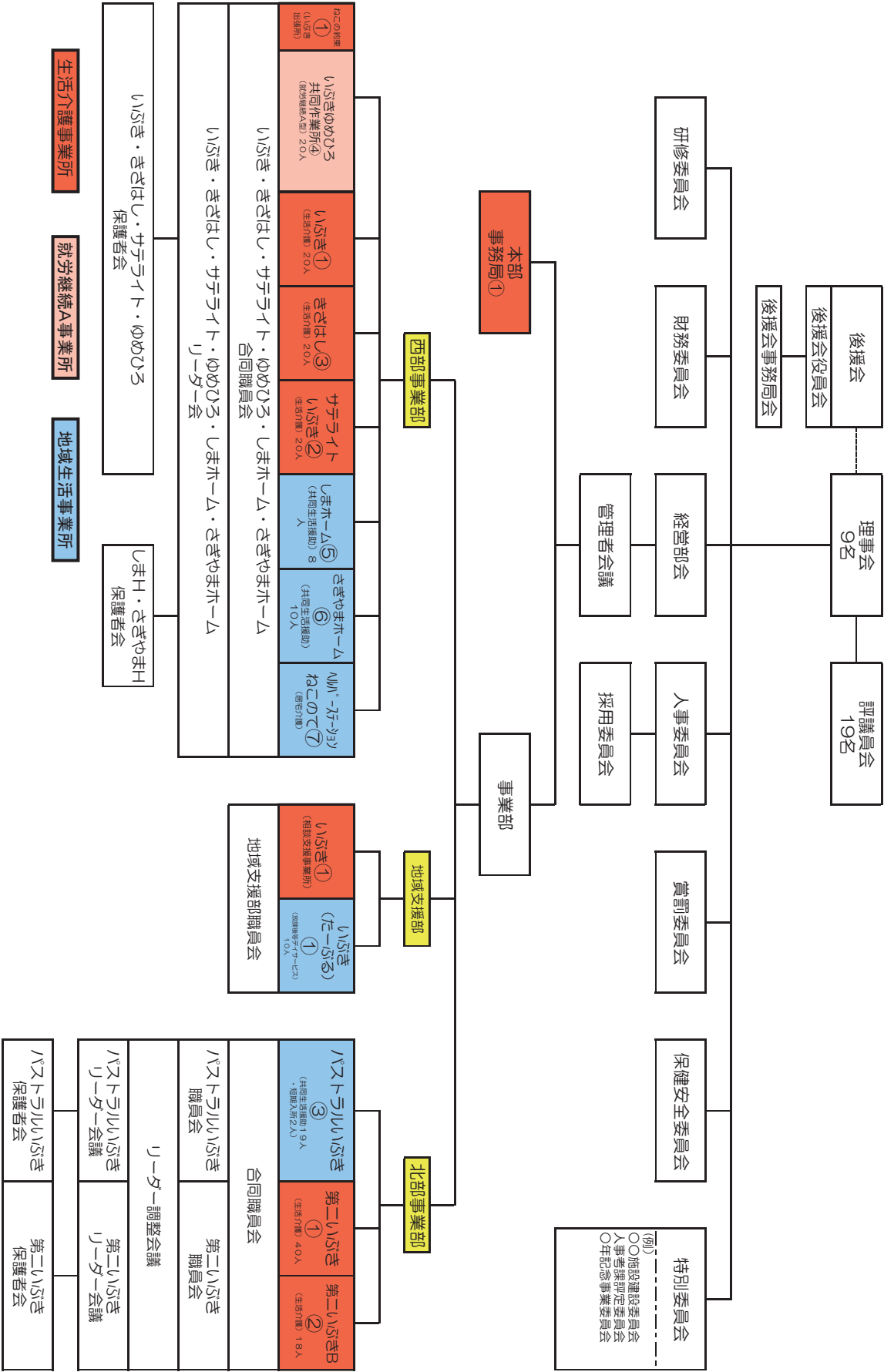
生活介護事業所 18名

パストラルいぶき

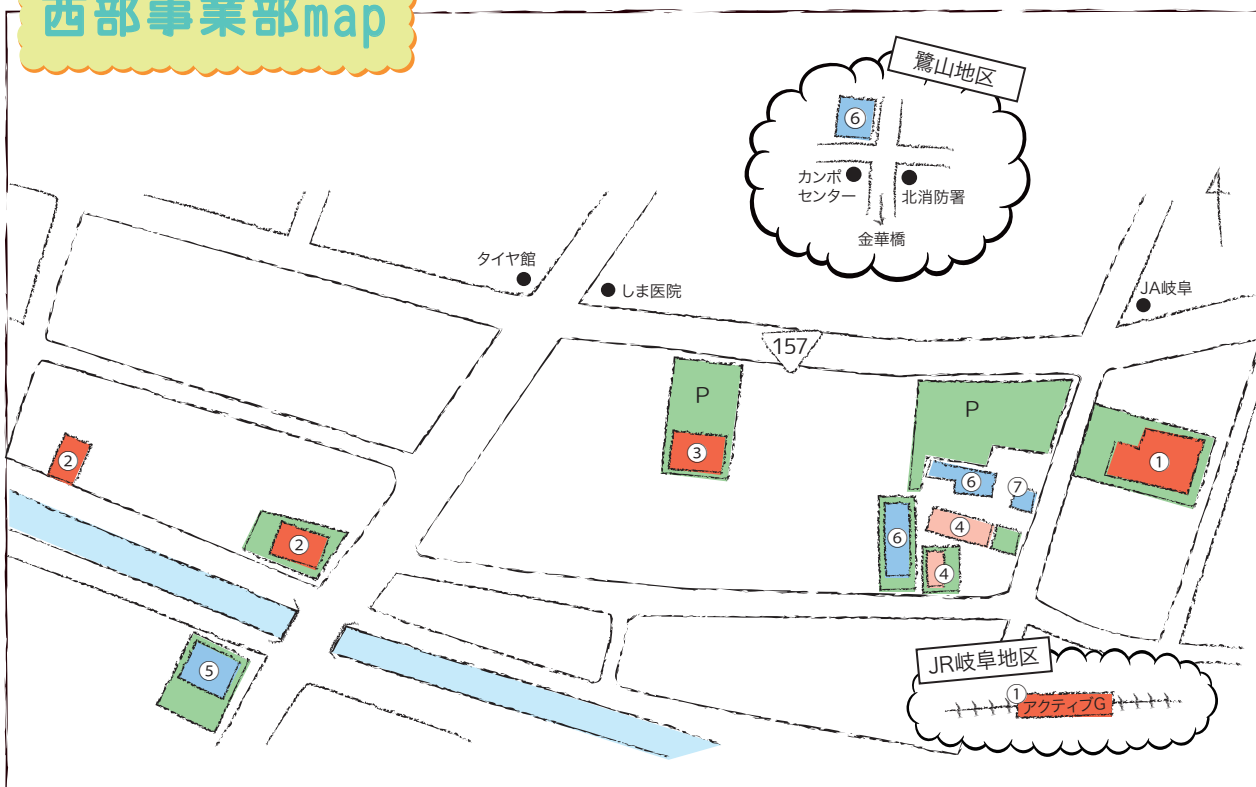
グループホーム 19名

いぶき福祉会組織図

2015.4.1



西部事業部map



北部事業部map



シリーズ 私と娘といぶきと

玲奈と私のかかわり

玲奈は昭和59年5月18日酒井家の第二子として誕生しました。玲奈の誕生は長女がとても喜んでくれました。



生まれたときは普通に思っていました。月日がたち(4ヶ月過ぎ頃)首の座りが悪くいろいろなことが長女のとく比べて遅く、保健所の10ヶ月検診で検査を受けるように言われました。

長良病院(現 長良医療センター)に定期的に受診し、精神発達遅滞と診断！なかなか障害とは受け止められずにはいましたが、小学校入学の時は特殊学級に決まりました。

小さい頃からなるべくお風呂にいれるよう心がけていました。(スキンシップをとるため)玲奈が中学生の頃、僕がバスの運転手をしていたので、夏休み勤務に合わせてお弁当持ちで出勤から帰宅まで連れて行ったこともありました。玲奈は話すことが苦手で、営業中は運転席の後ろ席で他人の顔をして乗車していましたが、事務所などでは職場の仲間に

も声をかけてもらい、今でもバスのおじさんとよく覚えています。趣味とまではいかないのですが、バイクに乗せてドライブしたこと(玲奈のおかげで持っていられる)木曾川・琵琶湖に水上オートバイ、ボート遊びと連れて行けるところには2人だけでも行きました。高



等部に進学すべく、中濃養護の面接試験に行ったときに玲奈にとつてすてきな出会いがあったように思います。(親にとつても)面接をしてくださっ

た先生が玲奈についての質問の中で、スポーツに対してもその当時もしくは以前にやっていたことを尋ねられましたので、3歳から10歳までやっていた水泳のことをお話ししました。その先生の勧めもあり、平成12年開催された友愛ピック向けの練習に参加するようにになりました。翌年ゆうあいピックにも参加でき、そのときをきっかけに水泳は長く続けています。東は東京、名古屋、横浜、千葉、西は香川まで、時には車やバスで仲間と二緒に大会参加、応援に行つたこともありました。

二十歳を過ぎた頃、思春期と反抗期が同時に来たかのように、突然怒り狂つたかのようにキレる、暴れる。今まで見たことのない仕草が現れた、男の僕でも抑えられない

力。今までのいい子ではない！その頃僕はどう接して良いのかわからず、ただ押さえつけるだけ、玲奈に誘導されていくだけと家内によく言われました。精神科の先生に頼り指導を受けるようになり、先生の顔を見て少し話をするだけでも心が落ち着くのかいい顔になり受診が楽しみなようです。

まだまだ玲奈に対する認識が薄く、理解がでないところが多くあります。家内に説教されているところではありますが、玲奈はいぶきにお世話になり1年半、ずいぶん安定した生活が送れています。これからまだいろんな方たちに世話をかけるのでしようが、本人はもとより家族が安心し、生活が送れるよう願います。

酒井 光男

『父親の会』報告



「さ〜いらつしゃい！」

イカ焼きいかがですか」

「安くて美味しい

イカ焼きですよ」

元気なお父さんたちの
声が会場に響き渡り
ます。



いぶきふれあいまつり
の恒例となりました父
親のイカ焼き。今年も
200パイ完売しまし
た。「竹内秘伝のタレ」
とお父さんたちの情熱
がタツグを組んで、イカ

の旨みが倍増。まつりの
人気商品として大好評。
さらに今年はボランテ
ィアの高校生の皆さん
と一緒に焼きそばコー
ナーも担当。お父さん
たちの奮闘が写真の笑
顔にあふれていると思
いませんか？



これらの活動を支えて
いるのが再結成された
「父親の会」です。「母親
任せにしない」この合言
葉でスタートした「父

親の会」は、この7月で1
年半が経過しました。
「会」は7名の父親で世
話人会体制を取り、集団
運営に心がけています。
「会」のめざす方向は
①父親同士の交流を大
切にする。
②いぶきを支えるボラン
ティア活動も積極的に取
り組む。
③いぶきの安定、発展へ
の貢献を考える。
の3点です。行事や計
画はいぶきの連絡ルー
トを活用してお父さん
たち全員に報告します
が、参加は自由。強制や
義務感一切なしの「会」
としています。交流会な
どの必要経費（飲み代
含む）は参加者が等分
に負担するシステムで
運営しています。
ようやく名前と顔が一致
するようになってきた交

流会は回を重ねること
に参加者も増え、4月
の第3回交流会では施
設側の出席を含め21
名が参加。子供といぶ
きの将来について話し
合うことができました。
ボランティア活動で
はパストラル周辺の草
刈や茶畑の整備などで
汗を流しています。いぶ
きまつりのイカ焼きも
こうした活動のひとつ。



草刈り

そして今、百々染原料
の草木栽培に取り組む
ため、自然豊かな洞戸
地域での休耕地探しに

入りました。こうして、
お父さんたちの挑戦
は続くのです。おかげ
で父親間の風通しも
ずいぶん良くなってい
きました。となると本音
がドンドン出てきます。
「子供と保護者の高齢
化」これは避けて通れ
ない問題です。「親なき
後」の子供の将来を考
える時、成年後見制度
が浮上してきました。
どうするのか？方向は
まだ見出せません
が……勉強が必要で
はとの意見で一致。今
年秋の開催をめざし
準備中です。

この文章を読んでい
るお父さん、ぜひ一緒
に子供の将来を語り、共
に行動しませんか？
参加をお待ちします。

「父親の会」世話人

前川 寧士

いぶき 仲間のすがた たーぶるからいぶきへ

三宅志歩さんがいぶきの一員となり2年目になります。



彼女は岐阜特別支援学校在学中に法人で運営している児童デイサービス「いぶき」に「たーぶる」を利用されていた。また、在学時には「デイジー」(現在の農作業グループプファア

ム)で就労体験実習を行いました。

私が、彼女とはじめて関わった時のことです。「たーぶる」の活動時間中、お気に入りの女性職員と肩を組み、キーボードから流れる音楽に大きく体を揺らして楽しんでる彼女の姿をみていて、少し話しかけてもいいかなと思い、近くに行きあいさつすると、「いー!」と私は怒られてしまったのでした。きつと見ず知らずの人からいきなり話しかけられびっくりしたのはもちろん、「今やりたいことがあるのに私の世界に入ってきてこないで」といった声

にも聞こえました。そのときにたーぶる担当職員から彼女のことを聞くと、外出先までバスで行けたけれど建物の前で入ることができなかったことや、食べられるものが限られていて食べられるもののひとつが柿の種であることなどを聞き、不安がすぐくあつて、こだわりが強い人という印象を持ちました。

平成25年6月(在学3年時)に就労体験実習へ来たときには、付添いの先生の手を引いて寄り添ってほしようにしていたり、彼女の持っている「つもり」と我々の声かけのズレで話を拒否する姿や、はじめての人、場所、作業に対しての不安があり、思いつきり泣いて「心の叫び」をアピールする様子が

多くみられました。

平成26年4月から、いよいよいぶきの一員として社会人の一歩を踏み出しました。所属したグループは農作業中心の「ファーム」です。天気が良い日は、午前中畑での作業をしに車に乗って出かけます。作業場は、揖斐川町春日上ヶ流(カミガレ)地区の茶畑と岐阜市内にあるブルーベリー畑です。しかし当初は、慣れない場所で「なにをされているのか」という不安で一歩踏み出せず、車から降りることがなかなかできませんでした。職員と一緒にこんなと誘っても、頑としてその場から動くことが難しい様子でした。その頃を思い返して考えると、彼女とファームの職員との「信頼関係」

ができていなかったのが、大きな不安要素であつたと思います。

彼女が、はじめて車から作業場に下りることができたきっかけは、ブルーベリー畑での「水やり」です。なにが彼女の心を動かしたのかと、一緒に作業をしながら様子をみていたのですが、ジョーロで水をやっていくときに手で水を触っていたのです。



いぶきでも「洗面所」で水を溜めたり、水に触れたりをする様子が多くみられます。そこで彼女の好きなものの1つが「水」なのではないかという仮

説を立てて、コミュニケーションのきつかけにしようと考えました。まずは、ブルーベリー畑に行くときは水とつながる「ジョーロ」をみてもらいながら予定を伝えて、イメージを持ってもらえるような誘いかけをするようにしました。



好きなことを通して職員と関わっていると目を合わせて微笑んだり、心地よい気分が「あゝあゝ」という声になって、「一緒に居てもいいな」「やってもいいかな」という様子がみられました。しかし、茶畑にはな

かなか足を下ろすことができませんでした。たまたま、地域の方に茶畑の近くの神社に面したスペースに駐車していいよと言われ、駐車位置を変えると車から降りてきました。なぜ降りて来られたのかなと一緒に足を進めていると、神社にある手水舎に辿り着きました。柄杓を持って水に触れて、楽しい時間を過ごす姿があったのです。何回か神社での時間を過ごすうちに、神社によって茶畑に行けるようになってきました。どちらも、とにかく作業をしようという支援ではなく、彼女の好きな「水」をきつかけに「きもちいい」「私はこれが見たい」といった気持ちに職員が寄り添うことを

にし、「この人は私の気持ちかがわかってくれる」という信頼感をつくることができたうえで作業への声かけを行うことによって、彼女が強く持つはじめての場所、ことへの不安を乗り越えることができたと思っています。

現在では、作業へ向かう道が変わったり、少し違う場所でも信頼できる人間関係を元にした声かけで「あ、ここだね」と安心して



一歩踏み出して作業に入れるようになってきています。さらに、お茶の作業で昨年の12月よりスタートした「三年番茶」の工程に、収穫した三年以上育ったチャノキをカットする作業があるので、ハサミを使うことが得意な彼女は、1日中でも「このシゴトがしたいの！」という姿がみられ、どんどん自信を深めていっています。



今後誰かにやらされるシゴトではなく、安心できる人、集団、場所をつくりながら「私が」やりたいシゴトを大切に支援していきたいと思っています。

いぶき 佐藤健太郎



第二いぶき

百々染の風景

今日も、いろいろな色でたくさんの人とつながりますように。そんな願いが百々染には込められています。みなさんに私たちが届けたいのは、ストールができるまでの風景そのもの。毎日百々染工房では、モノをつくりながら、そして、できあがったストールがお客様に届くまでの風景(ストーリー)を大切にしています。少しだけ、その風景のお伝えしたいと思います。

『3月の藍の種をまき、その種の上に土をかぶせていく作業の一場面。』



畑にまいいた種に隣の土を払うように被せていきました。手に伝わってくる土の感触や種が被さっていく様子、土のにおい、日差しの暖かさなど、表情からその楽しさが伝わってきます。その姿は「私のやりたいこと」だから、もっとここに居て、もっと楽しみたいという思いが膨らんで

いる姿がありました。』
今、百々染工房での藍染は、その畑で育った藍の生葉で染めています。1本に込められるストーリー(コト)は種まきをした時から続く風景が詰め込まれているのです。この藍はいつたい誰が、どのように育てたか、誰が摘んできたのか、染めた日がどんな天気だったのか、時期はいつだったのか、どんな染め方か、作り手がどんな思いで染め上げたか、それぞれ1本1本の染めあがり、それが違ってくる。同じストールは一つとしてないのです。

百々染のコトをさらに社会に伝えていく機会として東京のビックサイトで開催されたインターネットライフスタイル展(国際見本市)に出展してきました。バイヤーに百々染のコトを伝え、百々染のコトをお客さまに伝えてくれるショップやスタッフの方を増やし販売していくことで、仲間たちが社会から認められていくと考えています。



REAL Style SENDAI リアルスタイル仙台とあります。商品が流通していくことで、給料保障はもちろんのこと、働く仲間一人ひとりが担っているシゴトから役割を感じ、誰かと一緒に働く喜びを感じ、互いの存在を認めていくことができると思っています。

百々染の風景をもっと社会に伝えていくために、フェイスブックやツイッター、インスタグラム、ラインなどSNSを使い情報を発信しています。今日の風景は？今日のストールの染めあがり？ワクワクできる記事を写真と共にお届けしています。ぜひ一度ご覧ください。

第二いぶき

上野 由恵

現在、いぶき福祉会の運営する施設に100名をこえる利用者はさまざまな交通手段によって来てくれています。施設の近くに住んでいる人は徒歩や自転車です。公共交通機関を利用できる人はバスや電車を乗りついて来ている人もいます。以前は親さんの運転する車で送ってきてもらっている人もいましたが、送迎希望の有無を伺えば送迎を希望される方がほとんどです。施設側も希望に添えるように送迎車を増やし、運転手を雇い入れることによって、多くの方が施設が動かし、送迎車を利用しています。いまでも施



施設の方針として送迎車両を持たない施設もありますが、特別

30年前いぶき共同作業所が

もたらした波

支援学校など多くの障害者施設は送迎体制を整えて利用者を受け入れています。

今では当然のように行われている利用希望者を送迎するサービスも、30年前に動き出したいぶき共同作業所開所当時には考

えられないことでした。竹中均さんと横幕との2名でスタートしてすぐに岐阜バスで通ってきたSさん《現本巢市文殊》が加わり、さらに自前の送迎車を走らせることにより2名のGさんが入り、近所に住んでいたKさん

だ、企業を辞めさせられ在宅生活をしていったIさんやSさん(北方町)も来てくれました。岐阜養護(現特別支援)からは岐阜市近郊の笠松町や柳津町(当時は小規模作業所は設置されてなかった)からも親さんの送

が入り5名の利用者となりました。この送迎体制によって小規模授産設置要綱にある利用者5名以上の基準を満たすことができ、施設認定の書類を岐阜市に提出できたのです。いぶき共同作業所のことを小耳には

迎で3名が来てくれました。また、岐阜市在住のかんりの卒業生は恵光学園や新たに作られたみやこ授産所を利用することになっていったようです。いぶき共同作業所が開所したことによって岐阜の障害者福祉



は大きく広がりました。ようで、岐阜市や近郊の町に授産所が次々と開設されることにつながっていったように思えます。

次号へ続く
いぶき 横幕 嘉行

評議員会・理事会報告

5月21日(木)19時より、いぶき食堂において、第1回評議員会及び第1回理事会が開催され、以下の議案が審議されました。

第1号議案
2014年度事業報告及び決算(案)

財務委員会より、2014年度の決算が提案され、評議員会・理事会とも全会一致で原案通り承認可決されました。

(別添…決算書参照)

第2号議案
各種規定の改正案

本年度より、法人の大幅な組織改編が行われ

たことによる、就業規則・給与規定の改正案が提案され、評議員会・理事会とも全会一致で原案通り承認可決されました。

(別添…法人組織図参照)

林 守男



いぶき福祉会 決算報告

平成26年度決算報告

社会福祉法人いぶき福祉会
(単位:円)

貸借対照表(平成27年3月31日現在)

勘定科目		借方	勘定科目	貸方
流動資産		181,251,716	流動負債	27,688,990
	現金預金	57,011,247	未払金	24,035,683
	商品・製品	14,472,277	預り金	3,653,307
	仕掛品	462,900	固定負債	66,235,460
	原材料	2,444,018	設備資金借入金	42,294,000
	未収金	106,730,722	退職給与引当金	23,941,460
	立替金	130,552	負債の部合計	93,924,450
固定資産		687,256,015	基本金	182,345,144
	基本財産	472,575,669	国庫補助金等特別積立金	289,494,724
	その他の固定資産	214,680,346	その他の積立金	107,163,568
			次期繰越活動収支差額	195,579,845
			純資産の部合計	774,583,281
資産の部合計		868,507,731	負債及び純資産の部合計	868,507,731

資金収支計算書(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

勘定科目		決算額
就労支援事業収支	就労支援事業収入計	33,521,503
	就労支援事業支出計	38,021,166
	就労支援事業活動資金収支差額	-4,499,663
福祉事業活動収支	福祉事業収入計	576,556,805
	福祉事業支出計	546,767,598
	福祉事業活動資金収支差額	29,789,207
施設整備等収支	施設整備等収入計	10,254,000
	施設整備等支出計	44,827,638
	施設整備等資金収支差額	-34,573,638
財務活動収支	財務収入計	17,982,000
	財務支出計	8,829,373
	財務活動資金収支差額	9,152,627
	当期資金収支差額合計	-131,467
	前期末支払資金残高	136,314,998
	当期末支払資金残高	136,183,531

事業活動収支計算書(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

勘定科目		決算額
就労支援事業収支	就労支援事業収入計	33,521,503
	就労支援事業支出計	32,633,300
	就労支援事業活動収支差額	888,203
事業活動収支	福祉事業収入計	546,515,541
	福祉事業支出計	534,797,907
	福祉事業活動収支差額	11,717,634
事業活動外収支	事業活動外収入計	52,490,571
	事業活動外支出計	53,230,345
	事業活動外収支差額	-739,774
	經常収支差額	11,866,063
特別収支	特別収入計	11,234,433
	特別支出計	11,332,025
	特別収支差額	-97,592
	当期活動収支差額	11,768,471
繰越活動収支差額	前期繰越活動収支差額	167,233,422
	当期末繰越活動収支差額	179,001,893
	その他の積立金取崩額	17,982,000
	その他の積立金積立額	1,404,048
	次期繰越活動収支差額	195,579,845

いぶきふれあいまつりに参加して

いぶきの仲間から教わった！
生きる「こと」楽しむ「こと」輝く「こと」

私は今年の2月に開
市文化会館で行われた
「いぶきふれあいコンサ
ート」に出演させていた
できました。その時にい
ぶきの仲間と初めて出
会い、たくさん元気、
勇気、優しさ、そして
百々染のストールを頂
いて帰ってきました。



今回のまつりでは「バラ
の百々染」をまとい、ス
テージに立たせていた



できました。優しい桜色
の百々染が、私に華を添
えてくれました・・・。

私の再出演を楽しみに
待ってくださっていた
仲間の応援は、本当に胸
熱くなる思いでした。ス
テージのすぐ近くに集
まってくださり、声が枯
れるほどの「MIMOさ
んコール」にジーンと・
・・・皆さんのキラキ
ラな笑顔は、心の底から

ピアノに人生を楽しむ
ことを知っている表情で
した。私自身が見失って
いたことを、仲間の皆さ
んから気づかされっぱ
なしでした。



地域の皆さんとの「ふ
れあい」のためのまつり
というだけあり、近隣の
親子連れが多数来場さ
れ、美味しいものに舌鼓
を打ち、校庭になんとも
幸せな日曜日が溢れ返
っていました。ステージ
の上から眺めたその光
景は、私が夢にまで見た
「共に生きることが当た

り前」の世界でした。

私には11歳のダウン
症の娘がいます。私の
オリジナル曲に「どう
かこの子を」という曲
があります。私亡き後
でも、どうかこの子が
幸せであるように・
・そんな願いを込めた
曲です。この曲を聴い
てくださったいぶきの
職員の方が「親さんの
想いをしっかり受け取
りました。そしてこの
想いに応えるのが、
我々の使命です。」とお
っしゃってくださいま
した。その言葉に私は
泣きました・・・い
ぶきの仲間の笑顔の理
由が分かった気がしま
した。でも職員の皆さ
んの原動力になってい
るのが、他ならぬ仲間
の皆さんの笑顔なのだ
と。こんな素敵で、相思

相愛な出会い、私たち
親子にも待っていると
いいなあ・・・と「い
ぶき」の存在がちよっ
と、羨ましくなってい
ました。

こんなふうに施設ス
タッフに愛され、地域
にも自分の居場所があ
る、私の娘の人生もぜ
ひそうであってほしい。
いぶきの仲間の皆さん
のように、生きること
を目一杯楽しみ、その
命を輝かせてほしい。
「いぶきふれあいまつ
り」が私たち親子に、
次の目標を見つけてさ
せてくれました。出演さ
せていただけて、本当
に幸せでした。または
非！いぶきに遊びに行
かせてくださいね！

MIMO

第24回

いぶきふれあいまつり

5月24日(日)に第24回いぶきふれあいまつりを島小学校と島公民館にて行いました。

前々日からの雨予報を覆し、当日は晴天に恵まれ汗ばむ陽気となりました。地元の方をはじめ、たくさんの方にもお越しいただき、まつりは大盛況となりました。

開会宣言



ステージでは毎年参加



していただいている各団体の皆様が、音楽や踊りを披露していただきました。今年はMI MOさんのステージで、大盛り上がりでした。仲間のみんなはこの日に向けて練習を重ねてきたおどりを踊ったり、日ごろの仕事の成果を発表しました。

それぞれの役割を果

たした顔はとっても生き生きとして、とても満足気でした。

仲間のおどり



また、まつりはたくさんボランティアの皆さんに支えられて運営されています。会場の設営から模擬店の運営や仲間の支援も含め、本年はのべ160名を超えるボランティアの皆さんに力を貸していただきました。人気のカレーをはじめ模擬店の多くの調理は城南高校のMSリーダーズの皆さんが朝早くから準備をして

ていただきました。



城南高校の皆さん

また、岐阜各務野高校の皆さんに模擬店の販売や会場整備を手伝っていただきました。こうした高校生のボランティアの皆さんの明るい笑顔は会場をたいへん元気にしてくれました。大学生や社会人のボランティアの皆さんには仲間の支援を中心に毎年参加していただける方が多く、会えるのを楽しみにしている仲間もたくさんいます。

まつりの運営にあたりまして、たくさんの方々のご協力を頂きましたことを感謝し、これからもこのまつりがより良いものにしていこうと思います。今後ともよろしくお願い致します。

ボランティアさんと



第24回いぶきふれあいまつり実行委員会

事務局長 池田光巳

全国障害者問題研究会

第49回全国大会 岐阜2015

輝け! いのちと平和
語ろう! 発達保障とインクルーシブな社会
つながろう! 日本のまん真ん中で

8月8日(土) 受付 12:00~
全体会 会場:長良川国際会議場

8月9日(日) 受付 9:00~
分科会・学習講座 会場:岐阜大学

記念講演:斎藤貴男さん(ジャーナリスト)
「戦後70年 戦争のできる国づくりと格差社会」



文化行事:劇団ドキドキわくわく
「好き!好き!マイラブ!」

障害のある子ども、青年、成人の教育・
保育・福祉・医療・療育を考える2日間
全国の仲間と学び合いましょう

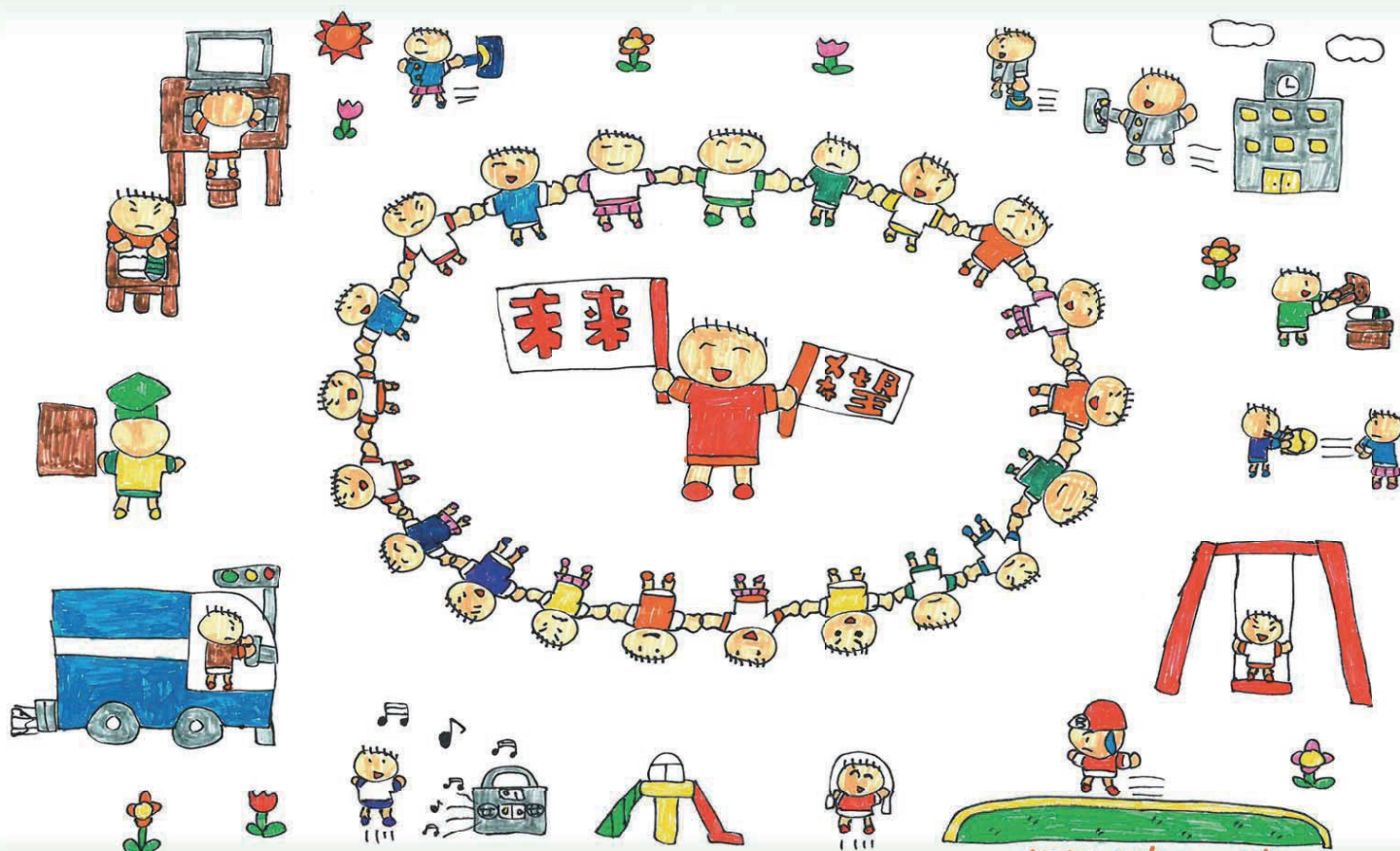


イラスト:廣江 凌

【主 催】全国障害者問題研究会・全障研岐阜大会準備委員会

全国事務局:東京都新宿区西早稲田2-15-1西早稲田関口ビル4F TEL03-5285-2601 FAX 03-5285-2603

大会準備委員会:岐阜市徹明通7-13教育会館401 TEL/FAX058-253-7033 大会専用TEL090-7956-5866

※大会の詳細は大会ホームページへ! www.zenshoken-gifu.com

【後 援】岐阜県・岐阜市・岐阜県教育委員会・岐阜市教育委員会・岐阜県社会福祉協議会・岐阜市社会福祉協議会・岐阜県特別支援学校校長会・岐阜県小中学校特別支援学級設置校校長会・岐阜県障害福祉事業所連絡会・日本教育公務員弘済会岐阜支部・エデュケーション岐阜・岐阜新聞・岐阜放送・中日新聞社・読売新聞社・朝日新聞社・毎日新聞岐阜支局・NHK岐阜放送局・シーシーエヌ・メ〜テレ・株式会社飛騨高山テレエフエム・FMわっち78.5MHz (2015年4月15日現在)

情報掲示板
(新規入会更新御礼)

後援会員への新規加入・更新をよろしくお願い致します

〔振込先〕

郵便振替 00840-3-91146
加入者名 いぶき福祉会後援会

〔年会費〕 一般会員 一口 2,000円
団体会員 一口 10,000円

〔お問合わせ〕 いぶき福祉会後援会事務局
TEL 058-233-7445
FAX 058-232-9140
E-Mail ibuki@alto.ocn.ne.jp
(タイトルに後援会員と入れて下さい)

後援会への入会はJR岐阜駅の
「ねこの約束」でも手続きしていただけます



編集後記

岐阜市の島に、いぶき福祉会の施設が誕生してから21年目に入りたいま、いぶき福祉会20年の歩みを、それ以前の重要な活動期でもあった日曜作業所や共同作業所時代のことも含めて、数名の職員を中心にまとめ冊子にする計画が進んでいます。秋の終わり頃には記念の会を催して、参加して下さる皆様にこの冊子をお届けするとのことです。この冊子には、『夢よもとひろがれ』の内容も反映することになると思いますので、今号の出来具合につきましても、お読みになられた皆様のご意見、ぜひ宜しくお願いいたします。

編集委員長 竹内章郎